

地方独立行政法人 宮城県立こども病院

2018（平成30）年度
後期臨床研修プログラム



MIYAGI CHILDREN'S HOSPITAL

宮城県立こども病院

目 次

新生児科	1
総合診療科	3
消化器科	4
アレルギー科	6
腎臓内科	8
リウマチ科・感染症科	9
血液腫瘍科	11
循環器科	13
神経科	15
外科	18
心臓血管外科	20
脳神経外科	22
形成外科	23
整形外科・リハビリテーション科	24
泌尿器科	26
産科	28
発達診療科	31
放射線科	32
麻酔科	33
集中治療科	35

新生児科

目標

1. 優れた知識と錬磨された技能を備えた周産期医療の臨床医を社会に送ること
2. わが国の妊産婦、胎児及び新生児がより高い水準の医学・医療の恩恵を受けることが可能となること
3. これらのことによって、社会の福祉に貢献すること

知識

1. 健常新生児の生理と発達
2. ハイリスク妊娠・分娩の識別、母体搬送、ハイリスク胎児についての知識
3. 病的新生児の病態についての理解と判断、問題対処能力の体得
4. 母子相互作用及び母乳保育の重要性についての理解
5. 周産期医療の地域化などの社会医学の理解

診療技術

1. 重症新生児の全身管理及び集中治療
2. 分娩立ち会いと新生児の取り扱い
3. 健常児の乳児健診
4. 健全な母子関係の形成と確立についての支援
5. ハイリスク児のフォローアップ

診療態度・医療倫理

1. 家族への面接技術の体得
2. 疾患の説明技術の体得
3. 家族の心理の理解と支援
4. 母体・胎児・新生児・家族についての生命倫理の理解

研究・教育・生涯教育

1. 臨床的もしくは実験的研究計画の作成と実施への参加
2. 学会発表及び学会参加
3. 研究論文の刊行

週間スケジュール

<週間スケジュール>

NICU回診：毎日午前、午後の2回

GCU回診：火、金の午後

関連科（循環器科・外科・脳神経外科・泌尿器科など）の回診：適宜

リハビリテーション科回診：水

眼科診察：水

放射線科とのフィルムカンファレンス：水

産科との周産期カンファレンス：火

*外科疾患・心疾患など、複数疾患合併胎児に関しては、それぞれの症例に応じて
合同カンファレンスを行っている。

	日	月	火	水	木	金	土
午前	NICU 回診	NICU 回診	NICU 回診	NICU 回診	NICU 回診	NICU 回診	NICU 回診
午後		NICU 回診	周産期 カンファレンス NICU/GCU 回診	放射線 カンファレンス 発達診療科回診 NICU 回診	NICU 回診	NICU/GCU 回診	

スタッフおよび施設認定など

新生児科常勤医：4名

渡辺 達也（科長）：日本小児科学会専門医、日本周産期・新生児医学会新生児指導医
 内田 俊彦（部長）：日本小児科学会専門医、日本周産期・新生児医学会新生児専門医
 名和 達郎（医師）：日本小児科学会専門医
 桜井 愛恵（医師）：日本小児科学会専門医
 吉田 茉莉恵（医師）

新生児科非常勤医：1名

齋藤 潤子（医師）：日本小児科学会専門医

周産期新生児専門医制度 基幹施設

日本小児科学会専門医制度研修認定施設

NICU12床、GCU15床、計27床

総合診療科

目標

小児の疾患に対して基本的診断、治療を行いうる知識と技能を習得する。

1. 小児疾患の診断に必要な問診および身体診察を行う。
2. 小児疾患の診断、治療に必要な手技（採血、点滴確保など）を行う。
3. 各種検査につきその必要性を判断し、実施、基本的な結果の解釈を行う。
4. 問診、診察、検査の情報を総合して診断を行う。
5. 治療方針を決定し、実行する。その結果を評価する。
6. 小児の発育、発達について総合的に評価する。

主な担当疾患

総合診療科は、病院の新患窓口として紹介患者の対応と振り分け、平日日中の救急対応、先天異常など専門科に振り分けにくい患児の主治医、各専門科間のコーディネーターとしての役割、乳児健診・予防接種、胃瘻・中心静脈栄養・酸素吸入・気管切開・人工呼吸管理など在宅医療を要する患児の外来フォローおよび入院治療、呼吸不全など重症児の治療などを担っている。

主な担当疾患は下記の通りである。

1. 感染症（気道、腸管、尿路など）
2. 呼吸器疾患（喉頭軟化症、気道狭窄、睡眠時無呼吸など）
3. 不明熱
4. 川崎病
5. 血管性紫斑病
6. 先天異常（染色体異常、多発奇形など）

週間スケジュール

月曜日 8:30 総合診療科ミーティング
木曜日 16:30 内科系カンファレンス
17:00 抄読会

スタッフおよび施設認定など

総合診療科の業務は、従来総合診療科に内包されていた消化器科、アレルギー科、腎臓内科、リウマチ・感染症科の医師によって行われる。

虻川大樹（科長）他常勤医 12 名（詳細は各専門診療科を参照）

日本小児科学会専門医制度研修認定施設

消化器科

目標

小児の発育、栄養および消化器・肝臓病に関する深い専門的知識と高度の診療技術を習得する。

1. 上下部消化管内視鏡検査、消化管造影検査、食道内 pH モニタリング、肝生検、中心静脈栄養といった小児消化器診療の基本的な手技を習得する。
2. 一般病院では診療の難しい重症・難治性消化器疾患（消化管出血、炎症性腸疾患、胆道閉鎖症、急性肝不全、重症膵炎など）を経験する。
3. 高度な検査・治療手技（ダブルバルーン小腸内視鏡、カプセル小腸内視鏡、内視鏡的大腸ポリープ切除術、処置内視鏡、血球成分除去療法、血液浄化療法など）を経験する。
4. 宮城県立こども病院外科や東北大学病院小児外科と緊密に連携し、小児外科疾患の診断および手術、術後の検査や内科的管理を経験する。
5. 栄養サポートチーム (NST) の一員として、病的な小児の栄養管理を学び、実践する。

主な担当疾患

「日本小児栄養消化器肝臓学会認定医カリキュラム」（同学会ホームページ参照）に列記されている疾患を担当する。当院には宮城県内の小児消化器疾患患者のほとんどが集中しており、近隣県からの紹介患者も多く、上記カリキュラムにある疾患・病態をほぼ網羅している。

主な担当疾患は下記の通りである。

1. 急性・慢性腹痛（急性虫垂炎、消化性潰瘍、機能性消化管障害など）
2. 嘔吐・下痢・便秘（肥厚性幽門狭窄症、腸重積症、慢性下痢症など）
3. 消化管出血（吐血、下血）
4. 異物誤飲
5. 炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）
6. 肝疾患（急性肝炎・肝不全、慢性肝炎、非アルコール性脂肪性肝疾患、新生児胆汁うっ滞）
7. 胆道疾患（胆道閉鎖症、先天性胆道拡張症など）
8. 膵疾患（急性膵炎、遺伝性膵炎）
9. 栄養疾患（肥満、やせ・摂食障害）

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
Am	ミーティング 新患（虻川） 再来（角田）	検査	再来（虻川） 再来（角田）	検査	再来（虻川） 再来（角田）
Pm	再来（虻川） 再来（角田）	検査 NST	再来（角田） 再来（本間） 消化器科抄読会	再来（虻川） 再来（角田） 内科系 3 科合同 カンファレンス 総合診療科抄読 会	再来（角田） 再来（伊藤）

スタッフおよび施設認定など

消化器科常勤医師： 4 名

虻川大樹（科長）：日本小児科学会指導医・専門医、日本小児栄養消化器肝臓学会認定医、
「子ども心」相談医、東北大学医学部臨床准教授、臨床研修指導医

角田文彦（医長）：日本小児科学会指導医・専門医、日本小児栄養消化器肝臓学会認定医、
臨床研修指導医

本間貴士（医師）：日本小児科学会専門医

伊藤貴伸（医師）：日本小児科学会専門医

アレルギー科

目標

小児のアレルギー疾患に対して基本的診断、治療を行いうる知識と技能を習得する。

1. 小児のアレルギー疾患の診断に必要な問診および身体診察を行う。
2. 小児アレルギー疾患の診断、治療に必要な手技（採血、皮膚テスト、呼吸機能検査、食物経口負荷試験、運動負荷試験、薬物負荷試験など）を行う。
3. 各種検査につきその必要性を判断し、実施し、結果の解釈を行う。
4. 問診、診察、検査の情報を総合して診断を行う。
5. 治療方針を決定し、実行する。その結果を評価する。

主な担当疾患

気管支喘息、アトピー性皮膚炎、食物アレルギー、アレルギー性鼻炎・副鼻腔炎・結膜炎、アナフィラキシー（食物依存性運動誘発性アナフィラキシーを含む）、蕁麻疹、金属や薬物アレルギーなどのアレルギー疾患全般に対して、他科と連携してきめ細かい診療を行っている。食物アレルギー患者に対しての食物負荷試験を積極的に行い（年間、延べ 1100 例程度）、食物負荷試験の結果をもとにした栄養指導を行っている。さらに、経口免疫療法（経口減感作療法）にも取り組んでいる。未だ確立された方法ではないが、今までアナフィラキシー等の症状のため、食物除去を余儀なくされていた患者の除去が解除になる症例が増加している。スギ花粉症に対しての舌下免疫療法も行っている。この治療法のお陰で寛解になる患者もいる。アレルギーで予防接種が困難と思われる患者への接種も積極的に行っている。薬物アレルギー患者への薬物負荷試験も行っている。局所麻酔薬アレルギー患者の診断的皮膚テストや負荷試験も行っている。気管支喘息やアトピー性皮膚炎患者に対してはコントロール目的の教育入院も行っている。また心理的要因の強い症例には児童精神科や臨床心理士と連携して心理的ケアを行っている。さらに、気管支喘息に対しては、リハビリテーション科や発達診療科と連携して発作時の呼吸理学療法を、全身麻酔手術を受ける際の術前後の管理も行っている。

主な担当疾患は下記の通りである。

- 1) アトピー性皮膚炎
 - 2) 気管支喘息
 - 3) 食物アレルギー
 - 4) 薬物アレルギー
 - 5) アナフィラキシー（食物依存性運動誘発性アナフィラキシーを含む）
 - 6) アレルギー性鼻炎・副鼻腔炎・結膜炎
 - 7) 蕁麻疹
 - 8) 金属アレルギー
- など

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
Am	ミーティング 検査(食物負荷)	検査(食物負荷)	外来(新患) 検査(食物負荷)	外来(再来) 検査(食物負荷)	外来(再来) 検査(食物負荷)
Pm	外来(再来)	外来(再来)	外来(経口免疫 療法)	外来 内科系合同カン ファレンス 抄読会	アトピー性皮膚 炎教育入院

スタッフおよび施設認定など

アレルギー科常勤医師： 4名

三浦克志(科長)：日本小児科学会指導医・専門医、日本アレルギー学会指導医・専門医、
Infection Control Doctor、東北大学医学部非常勤講師、臨床研修指導医

堀野智史(医長)：日本小児科学会指導医・専門医

佐藤大記(医師)：日本小児科学会専門医

二瓶真人(医師)：日本小児科学会専門医、臨床研修指導医

日本アレルギー学会認定教育施設

腎臓内科

目標

小児の腎臓に関係した各種病態（水・電解質異常、腎炎、ネフローゼ、急性・慢性腎不全、小児泌尿器疾患）の理解と診断、治療の技術の習得を目標とする

1. 水・電解質異常の病態の把握と理解、治療に必要な水・電解質の調整について習得する
2. 検尿異常について、その原因診断、適切な管理、治療の方針がたてられるようにする。
3. 腎炎・ネフローゼについて腎生検を含む診断技術および治療技術を学ぶ。治療に必要な各種薬剤の適切な使用について習得する。
4. 急性腎不全について急性血液浄化を行うのに必要な知識、技術の習得、および体外循環血液上の技術が必要な病態（肝不全、膵炎、先天代謝異常症など）で、対応できるようにする
5. 慢性腎不全の全身管理および透析の技術を学ぶ
6. 尿路感染症、水腎症、膀胱尿管逆流症などの小児泌尿器疾患につき、画像検査を含む診断技術を習得する

主な担当疾患

1. 検尿異常（血尿、蛋白尿など）
2. 水・電解質異常（高・低 Na 血症、高・低 K 血症、アシドーシスなど）
3. ネフローゼ症候群（ステロイド依存性、ステロイド抵抗性）
4. 腎炎（急性腎炎、慢性腎炎、尿細管間質性腎炎、膠原病に伴う腎炎など）
5. 高血圧（一次性、二次性）
6. 急性腎不全
7. 体外循環急性血液浄化（急性肝不全、膵炎、先天代謝異常症、術後急性腎不全、敗血症・多臓器不全など）
8. 慢性腎不全
9. 小児泌尿器疾患（尿路感染症、膀胱尿管逆流症、水腎症など）

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	腎生検	外来	腎生検	外来	外来（新患）
午後			外来 抄読会	外来	

スタッフおよび認定施設など

常勤医師：3名
稲垣徹史（科長）
高橋俊成（医師）：日本小児科学会専門医
佐々木太郎（医師）：日本小児科学会専門医

リウマチ・感染症科

目標

- ・小児リウマチ性疾患に対して診断、治療を行いうる知識と技能を習得する。
 1. 小児リウマチ性疾患の診断・評価に必要な問診および身体診察を行う。
 2. 小児リウマチ性疾患における各種検査につきその必要性を判断し、基本的な結果の解釈を行う。
 3. 治療方針を決定・実行し、その効果を正しく評価し、治療内容の改善をする。
 4. 全身の炎症性疾患として対応すべく、他科との連携を行う。
 5. 慢性疾患における患児、家族への対応を適切に行う。
- ・小児感染症における診断・治療を行いうる知識と技能を習得する。
 1. 微生物検査における検体の扱いを正しく行い、その結果について適切に評価する。
 2. 臨床症状、臓器障害の内容などから原因微生物を考察し、適切な感染症治療薬を選択する。
 3. 感染症治療薬を使用した後、その効果を正しく評価し、治療内容の改善を行う。
 4. 感染制御における基本的な知識を習得する。

主な担当疾患

東北では数少ない小児リウマチ性疾患を専門に扱う診療科として、東北各地から紹介・相談を受けている。若年性特発性関節炎に対する生物学的製剤も積極的に使用し、数十例に対して投与を継続している。また、新規生物学的製剤の全国的な治験にも参加している。主な担当疾患は下記の通りである。

- 1) JIA（若年性特発性関節炎）
- 2) SLE（全身性エリテマトーデス）
- 3) 若年性皮膚筋炎
- 4) その他（シェーグレン症候群、高安動脈炎、自己炎症性疾患など）

感染症領域の対象疾患は一般感染症、重症感染症、外科系感染症、新生児感染症、稀な病原体による感染症、免疫抑制状態にある患者における感染症などが挙げられる。各診療科から感染症に関するコンサルテーションを受け、適切な指導・助言を行う。

また、感染症治療だけに留まらず、アウトブレイクへの対応、予防接種への関わり、耐性菌出現に絡む抗菌薬適正使用への取組みなど、ICT（Infection Control Team）として感染管理業務を、AST（Antimicrobial Stewardship Team）として抗菌薬適正使用支援業務を行う。

週間スケジュール

毎日午前中 細菌検査室ラウンド

月曜日 8:30 総合診療科ミーティング

水曜日 14:00 ICT ラウンド、AST ミーティング

木曜日 16:30 内科系カンファレンス

17:00 抄読会

金曜日 14:00 後期研修医への小児感染症レクチャー

17:00 外来症例カンファレンス

スタッフおよび施設認定など

梅林宏明（科長）：日本小児科学会指導医・専門医、日本リウマチ学会リウマチ専門医、
東北大学医学部非常勤講師

桜井博毅（医長）：日本小児科学会専門医

血液腫瘍科

目標

小児の血液疾患・小児がん疾患に対して基本的診療を行いうる知識と技能を習得する。

1. 知識

- 1) 血液疾患・造血器腫瘍疾患の診断法(骨髄及び末梢血の細胞・形態化学、表面マーカー、画像検査、染色体、遺伝子、凝固・線溶マーカーなど)
- 2) 造血幹細胞移植、分子標的療法を含めた血液腫瘍性疾患の治療法
- 3) 輸血療法、経静脈高カロリー輸液及び化学療法の支持療法
- 4) 血友病の凝固因子補充療法や在宅管理
- 5) 小児がん患者および家族に対する成育支援

2. 技能

- 1) 末梢血および骨髄塗沫標本の検鏡と判読
- 2) CT、MRI、Ga シンチ等の読影
- 3) 骨髄穿刺、腰椎穿刺、骨髄生検

3. 学術・研究

- 1) 血液および腫瘍領域の学会における発表・論文投稿
- 2) 小児科領域の学会並びに研究会での発表・論文投稿

主な症例

1. 造血器腫瘍性疾患

- 1) 急性リンパ性白血病
- 2) 急性骨髄性白血病
- 3) 慢性骨髄性白血病
- 4) 骨髄異形成症候群
- 5) 悪性リンパ腫
- 6) ランゲルハンス細胞組織球症 など

2. 固形腫瘍

- 1) 神経芽細胞腫
- 2) 横紋筋肉腫
- 3) ウィルムス腫瘍 など

3. 血液疾患

- 1) 再生不良性貧血
- 2) 溶血性貧血
- 3) ウィルス関連血球貪食症候群
- 4) 特発性血小板減少性紫斑病

4. 血友病などの血液凝固異常症 など

5. 免疫不全症

- 1) 低ガンマグロブリン血症
- 2) Common Variable Immunodeficiency など

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
Am	外来, 病棟	病棟	外来, 病棟	病棟	外来, 病棟
Pm	病棟	外来, 病棟	病棟	病棟	病棟

- 血液腫瘍科ミーティング：毎週火曜日 11：00～（血液抄読会も含む）
- 病棟ミーティング：毎週木曜日 14：30 より（医師、看護師、心理士など）
- 外来ミーティング：隔月最終（月）曜 16：00 より（医師、看護師など）
- 造血幹細胞移植外来：毎月第 2 火曜午後、毎月第 4 金曜午前
- 血友病専門外来：毎月第 4 火曜午後
- 内科系ミーティング：毎週木曜日 16:30～
- 臨床病理カンファランス：毎月最終月曜日 17：30～
- 骨髄鏡検会：毎月第 4 木曜日 16：00～16：30（検査部合同）
- 東北大学医学部附属病院小児科・血液腫瘍グループとの合同カンファランス
毎月第 1 木曜日 18：00～19：00

スタッフおよび施設認定など

血液腫瘍科常勤医師： 5 名

佐藤 篤（科長）：日本小児科学会専門医、日本血液学会認定専門医・
指導医、小児血液・がん学会専門医・指導医、日本
がん治療認定医 日本造血細胞移植学会造血細胞移
植認定医

小沼 正栄（部長）：

南條 由佳（部長）：日本小児科学会専門医、日本血液学会認定専門医

鈴木 信（医長）：日本小児科学会専門医

鈴木 資（医長）：日本小児科学会専門医

日本小児科学会専門医制度研修認定施設

日本血液学会認定研修施設

日本がん治療認定医機構 認定研修施設

日本小児血液・がん専門医研修認定施設

日本骨髄移植推進財団 移植認定病院

日本臍帯血バンクネットワーク 登録病院

循環器科

目標

小児の循環器疾患に対して基本的診療を行いうる知識と技能を習得する。

1. 小児の循環器疾患の診断に必要な問診や理学的所見の取り方に慣れる。
2. レントゲン、心電図、などの臨床検査の読み方を習得する。
3. 心エコー、心臓カテーテルなどの検査を自ら行う。
4. 心不全やチアノーゼに対する全身管理を習得する。

主な担当疾患

小児循環器科疾患のすべて。

頻度の高い、代表的なものは以下の通りである。

1. 単純性先天性心疾患
 - 1) 心室中隔欠損症
 - 2) 心房中隔欠損症
 - 3) 肺動脈弁狭窄症など
2. 複雑性先天性心疾患
 - 1) 完全大血管転位症
 - 2) 総肺静脈還流異常症
 - 3) 左心低形成症候群など
3. 心筋疾患
 - 1) 心筋症
 - 2) 心筋炎
4. 不整脈
 - 1) WPW 症候群
 - 2) 先天性完全房室ブロック
 - 3) QT 延長症候群など
5. その他
 - 1) 原発性肺高血圧症など

ICU での全身管理

カテーテル治療

胎児診断

患児の家庭や学校での生活管理指導についても可能なかぎり参加する。

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
Am	心カテ	外来	心カテ	外来	心カテ
Pm	新患外来	外来	心カテ	心カテ	心カテ

- ミーティング・回診は毎日
- 外来は可能な限り複数の医師で担当
- 毎週抄読会、心カテカンファランスあり

スタッフおよび施設認定など

循環器科常勤医師：5名

田中 高志（科長）：日本小児科学会専門医 日本小児循環器学会専門医
東北大学臨床准教授 日本胎児心臓病学会胎児心エコー認証医
小澤 晃（部長）：日本小児学会専門医 日本小児循環器学会専門医
大軒 健彦（医長）：日本小児科学会専門医
矢尾板 久雄（医師）：日本小児科学会専門医
前原 菜美子（医師）

日本小児科学会専門医制度認定研修認定施設
小児循環器専門医修練施設認定施設

神経科

目標

小児神経疾患に対して基本的診療を行いうる知識と技能を習得する。

1. 小児の正常発達を理解する。
2. 小児神経疾患の診断に必要な問診および身体診察を習得する。
3. 小児神経疾患の臨床検査の選択と結果の解釈ができるようにする。
4. 脳波、誘発電位の測定を施行でき、基本的な解釈ができるようにする。
5. CT、MRI、MRAなどの画像所見について正常所見、基礎的な異常所見を理解する。
6. 医療福祉制度を理解し患者へ説明できる。

主な担当疾患・検査

小児神経疾患に幅広く対応している。

頻度の高い、代表的なものは以下の通りである。

1. 軽度発達障害
 - 1) 精神遅滞
 - 2) 広汎性発達障害
 - 3) 注意欠陥多動症
 - 4) 学習障害
2. 重症心身障害
3. 発作性疾患
 - 1) てんかん
 - 2) 不随意運動
 - 3) 発作性ジスキネジア
 - 4) けいれん重積症
4. 炎症性疾患
 - 1) 急性脳炎・脳症
 - 2) 髄膜炎
5. 先天異常症候群
 - 1) 神経皮膚症候群
 - 2) 脳形成異常症
 - 3) 染色体異常
 - 4) 奇形症候群
6. 先天性代謝異常症
 - 1) ライソゾーム病
 - 2) ミトコンドリア病
 - 3) ペルオキシゾーム病

7. 免疫性神経疾患
 - 1) 重症筋無力症
 - 2) ギランバレー症候群
 - 3) 多発性硬化症
8. 脊髄・筋疾患
 - 1) 筋ジストロフィー
 - 2) 先天性ミオパチー
 - 3) 代謝性ミオパチー
 - 4) 脊髄性筋萎縮症
9. 末梢神経疾患
 - 1) 遺伝性運動感覚ニューロパチー
 - 2) 慢性再発性多発性神経炎
10. 脊髄疾患
 - 1) 脊髄腫瘍、血管腫
11. 脳血管障害
 - 1) もやもや病
 - 2) 脳梗塞、脳出血
 - 3) 片頭痛
12. 精神神経疾患
13. 睡眠障害
14. 診療上必要な検査
 - 1) CT、MRI、MRA、SPECT などの画像検査
 - 2) 脳波、誘発電位、筋電図、脳波モニタリングなどの神経生理学的検査
 - 3) 筋生検、末梢神経生検
 - 4) 各種稀少疾患に対する遺伝子検査、生化学検査
 - 5) 発達検査、神経心理検査
15. その他
 - 1) 人工呼吸器管理（在宅も含めて）
 - 2) 小児救急疾患の全身管理

週間スケジュール

- 回診は毎日
- 外来は可能な限り、参加する。神経科救急患者も積極的に担当する。
- 適宜、画像・神経生理検査を施行、カンファレンスが随時あり

スタッフおよび施設認定など

神経科常勤医： 8名

萩野谷 和裕(科長)：日本小児科学会専門医、日本小児神経学会専門医、日本てんかん学会てんかん専門医

富樫 紀子(科長)：日本小児科学会専門医、認定小児科指導医

乾 健彦(医長)：日本小児科学会専門医、日本小児神経学会専門医

大久保 幸宗(医長)：日本小児科学会専門医

佐藤 亮(医長)：日本小児科学会専門医

宮林 拓矢(医師)：日本小児科学会専門医

渋谷 守栄(医師)

日本小児神経学会専門医研修認定施設

外科

目標

小児の外科的疾患に対して基本的診療を行い得る知識と技能を習得する。

1. 小児の外科的疾患の診断に必要な問診および身体診察を行う。
2. 臨床検査の選択・実施、結果の解釈を行う。
3. 検査の情報を総合して小児外科疾患の診断を行う。
4. 手術的療法の選択・実施、結果の評価を行う。
5. 手術後の全身・局所管理の実施と評価を行う。

主な担当疾患・手術

小児の胸腹部および外表の一般外科的疾患に対応している。また適宜、胸腔鏡/腹腔鏡手術を採用している。代表的な取り扱い疾患・手術は以下の通りである。

1. 鼠径部・臍部
 - 1) 鼠径ヘルニア・陰嚢水腫
 - 2) 停留精巣
 - 3) 臍ヘルニア
2. 頭頸部
 - 1) 先天性頸部嚢胞・瘻孔（甲状舌管嚢胞、側頸嚢胞など）
3. 呼吸器・胸部
 - 1) 気管・気管支鏡検査（ファイバースコープ・直達鏡）異物摘除
 - 2) 気管切開術
 - 3) 喉頭気管分離術
 - 4) 声門下狭窄症
 - 5) 嚢胞性肺疾患
 - 6) 先天性食道閉鎖症・狭窄症
 - 7) 漏斗胸
 - 8) 縦郭腫瘍および嚢胞性疾患
4. 上部消化管
 - 1) 胃食道逆流症
 - 2) 肥厚性幽門狭窄症
 - 3) 先天性腸閉鎖症
 - 4) 腸回転異常症
 - 5) 新生児腹膜炎（消化管穿孔・壊死性腸炎・胎便関連疾患）
 - 6) 胃瘻造設術
 - 7) メッケル憩室

5. 下部消化管
 - 1) 急性虫垂炎
 - 2) 腸重積症
 - 3) ヒルシュスプルング病
 - 4) 直腸肛門奇形
 - 5) 炎症性腸疾患
6. 肝・胆・膵・脾
 - 1) 胆道閉鎖症の診断・管理
 - 2) 先天性胆道拡張症
 - 3) 遺伝性球状赤血球症
 - 4) 特発性血小板減少性紫斑病
 - 5) 門脈圧亢進症
 - 6) 急性膵炎 その他膵疾患
7. 腹壁・横隔膜
 - 1) 腹壁破裂
 - 2) 臍帯ヘルニア
 - 3) 先天性横隔膜ヘルニア 横隔膜弛緩症
8. その他
 - 1) 中心静脈カテーテル挿入
 - 2) 各種検査・処置（消化管・気管気管支・腹腔・胸腔・生検など）

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	手術	外来	手術	外来	手術
午後	手術	検査 NST	手術	外来	手術

- ミーティング・回診は毎日
- 外来は可能な限り複数の医師で担当
- 臨時手術やカンファレンスは随時行っている。

スタッフおよび施設認定など

外科常勤医師： 3名

遠藤 尚文（科長）：日本外科学会専門医、日本小児外科学会専門医・指導医、
東北大学医学部臨床教授

佐々木 英之（部長）：日本外科学会専門医、日本小児外科学会専門医・指導医
がん治療認定医、東北大学医学部非常勤講師

大久保 龍二（医師）：日本外科学会専門医、東北大学医学部非常勤講師

日本外科学会専門医制度修練施設（関連施設）

日本小児外科学会専門医制度認定施設（特定施設）

心臓血管外科

目標

先天性心疾患に対する外科手技を中心とした基本的診療を行いうる知識と技能を習得する。

1. 先天性心疾患の病態を理解し、手術適応や手術方法を判断する能力を養う。
2. 小児に対する体外循環（人工心肺）の基礎と臨床を理解する。
3. 手術に積極的に参加し、心臓血管外科の基本的手術手技を身につける。
4. 小児心臓血管外科手術後の患者の病態を把握し、循環呼吸管理を中心とした周術期治療に参加する。
5. 入院から退院までのベッドサイドの責任を持たせることで心臓血管外科医としての動機付けを促し将来を担う人材を育成する。

主な担当疾患

1. 先天性心疾患

1) 大血管の異常

- ① 動脈管開存症
- ② 大動脈縮窄症（複合を含む）
- ③ 大動脈離断症（複合を含む）
- ④ 血管輪

2) 非チアノーゼ性心疾患

- ① 心房中隔欠損症
- ② 心室中隔欠損症
- ③ 房室中隔欠損症

3) チアノーゼ性心疾患

- ① ファロー四徴症
- ② 両大血管右室起始症
- ③ 完全大血管転位症
- ④ 三尖弁閉鎖症
- ⑤ 総肺静脈還流異常症
- ⑥ 単心室症
- ⑦ 左心低形成症候群

2. 後天性心疾患

心臓弁膜症、冠動脈疾患など

3. その他

先天性弁疾患、その他の先天性心疾患、不整脈の外科治療、重症心不全の機械的補助

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
Am	手術	外来	手術	回診	手術
Pm	手術	術前検討 シネカンファランス	手術	術前検討	手術

スタッフおよび施設認定など

心臓血管外科常勤医師：3名

崔 禎浩（科長） 心臓血管外科専門医・修練指導医、日本外科学会専門医、
日本心臓血管外科学会国際会員

松尾 諭志（医長） 心臓血管外科専門医、日本外科学会専門医、
臨床研修指導医

正木 直樹（医長） 日本外科学会専門医

臨床工学技士：4名

心臓血管外科専門医認定機構基幹施設

脳神経外科

目標

小児脳神経外科の外科診療と管理に習熟する。

主な担当疾患・手術

1. 脳腫瘍
2. 水頭症
3. 二分脊椎、二分頭蓋、その他中枢神経系先天異常
4. もやもや病、その他小児脳血管障害
5. 頭蓋縫合早期癒合症

スタッフおよび施設認定など

脳神経外科常勤医師： 3名

白根 礼造（副院長兼科長）：日本脳神経外科学会専門医，日本小児神経外科学会認定医

君和田友美（部長）：日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医、日本神経内視鏡学会技術認定医、日本小児神経外科学会認定医

小濱みさき（医長）：日本脳神経外科学会専門医、日本脳卒中学会専門医

脳神経外科学会専門医制度研修認定施設

- 当科の特徴は手術症例が豊富で、短期間の研修で小児脳神経外科疾患の多くを経験できる点である。
- 手術や周術期管理に積極的に参加してもらおう。
- 期間は3ヶ月以上が望ましい。
- 東北大学脳神経外科と連携し、一般脳神経外科の研修も可能。
- 脳神経外科専門医の取得可能。

形成外科

目標

小児の形成外科的疾患に対して基本的診療を行いうる知識と技能を習得する。

1. 小児の形成外科的疾患についての知識を習得する。
2. 形成外科の基本的な手術手技を習得する。
3. 代表的な疾患について、手術の時期や術式などを含めた治療計画を立案できるようになる。
4. 小児の形成外科疾患について、周術期の患者管理を行なえるようになる。

主な担当疾患

形成外科が取り扱う疾患について広く対応している。頭蓋顎顔面外科、手の外科、皮膚外科などの分野において、先天異常を中心に診療を行なっている。扱う頻度の高い疾患は以下の通りである。

1. 頭蓋顎顔面外科
 - 1) 口唇裂・口蓋裂
 - 2) 耳介の先天異常
 - 3) 頭蓋縫合早期癒合症
2. 四肢の外科
 - 1) 手の先天異常
 - 2) 手の外傷、外傷後遺症
 - 3) 足趾の先天異常
3. 皮膚外科
 - 1) 母斑、血管腫
 - 2) 皮下腫瘍、皮膚腫瘍
 - 3) 瘢痕拘縮、醜状瘢痕

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
Am	外来	手術	外来	手術	外来
Pm	病棟	手術	病棟	手術	病棟

スタッフおよび施設認定など

形成外科常勤医師：3名

真田 武彦（科長）：日本形成外科学会専門医

浅野 裕香（医長）

福士 彩記子（医師）

日本形成外科学会教育関連施設

整形外科・リハビリテーション科

目標

小児の骨関節・運動器疾患に対して基本的診療を行いうる知識と技能を習得する。

1. 小児の骨関節および運動器の生理と病態を理解する。
2. 小児整形外科的疾患の診断に必要な診察ならびに画像検査読影を習得する。
3. 基本的な小児整形外科的疾患の保存療法を習得する。
4. 基本的な小児整形外科的疾患のリハビリテーション処方を習得する。
5. 基本的な小児整形外科的疾患の手術療法を経験する。

主な担当疾患と診断治療法

1. いわゆる小児整形外科疾患
 - 1) 先天性股関節脱臼 (US、Xp、リーメンビュウゲル、手術)
 - 2) 筋性斜頸 (リハ、手術)
 - 3) 先天性内反足 (矯正ギプス、手術)
 - 4) 小児O脚 (Xp、装具)
 - 5) 小児外反扁平足 (Xp、装具)
 - 6) ペルテス病 (US、Xp、MRI、装具)
 - 7) 大腿骨頭すべり症 (US、Xp、MRI、手術)
 - 8) 側彎症 (Xp、装具)
 - 9) 骨端症 (Xp、装具)
2. 骨系統疾患
 - 1) 骨形成不全症 (Xp、ギプス、手術)
 - 2) 軟骨無形成症 (Xp、手術)
 - 3) くる病 (Xp、装具)
3. 先天性形成不全
 - 1) 先天性脛骨列形成不全 (Xp、MRI、装具、手術)
 - 2) 先天性腓骨列形成不全 (Xp、装具、手術)
 - 3) 先天性下肢切断 (Xp、義足)
4. 小児神経疾患
 - 1) 分娩麻痺 (リハ)
 - 2) 脳性麻痺 (リハ、補装具、矯正ギプス、ボトックス、手術)
 - 3) 二分脊椎 (リハ、補装具、矯正ギプス、手術)
 - 4) 遠位型ニューロパチー (リハ、補装具、矯正ギプス、手術)
 - 5) 先天性筋疾患 (リハ、補装具、矯正ギプス、手術)
5. その他の小児疾患・外傷
成長痛、肘内障、骨端線損傷、小児骨折、化膿性関節炎など

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
AM	股外来	再来	再来 (装具診)	手術	手術
PM	ボトックス	新患	再来 (装具診)	手術	病棟

- 病棟回診・処置は毎日
- 随時、症例およびX線カンファランス
- ボトックスおよび手術は全員参加

スタッフおよび施設認定など

常勤医師：4名

落合達宏 (整形外科科長)

日本整形外科学会専門医・指導医

日本リハビリテーション医学会専門医・指導医

高橋祐子 (リハビリテーション科長)

日本整形外科学会専門医・指導医

日本リハビリテーション医学会専門医・指導医

水野稚香 (部長) 日本整形外科学会専門医・指導医

日本リハビリテーション医学会専門医

小松繁允 (医師) 日本整形外科学会専門医

理学療法士12名、作業療法士7名、言語聴覚士5名

日本整形外科学会研修認定施設

日本リハビリテーション医学会研修認定施設

泌尿器科

目標

小児の泌尿器科疾患に対して基本的診療を行いうる知識と技能を習得する。

1. 小児の泌尿器科疾患の診断に必要な問診および身体診察を行う。
2. 臨床検査の選択・実施、結果の解釈を行う。
3. 検査の情報を総合して小児泌尿器科疾患の診断を行う。
4. 手術適応を判断、術式を選択・実施し、術後の評価を行う。
5. 関連学会にて臨床成績・症例の発表、学会誌に論文発表を行う。

主な担当疾患と手術・検査

小児の泌尿器科疾患に広く対応しているが、頻度の高いものは以下の通りである。

1. 腎・尿管・膀胱・尿道
 - 1) 膀胱尿管逆流防止術
 - 2) 腎盂形成手術
 - 3) 尿管膀胱新吻合術、尿管形成手術
 - 4) 尿管瘤内視鏡手術、後部尿道弁内視鏡手術
2. 外陰部・生殖器
 - 1) 停留精巣固定術、非触知精巣腹腔鏡検査
 - 2) 精巣水腫・精索水腫根治術、精索静脈瘤（顕微鏡下）手術
 - 3) 尿道下裂形成手術、包茎手術、陰茎陰囊形成術
 - 4) 女児外陰部形成術（先天性副腎皮質過形成、性分化疾患）
3. その他、検査
 - 1) 泌尿器科領域超音波検査
 - 2) 膀胱/尿道/腔内視鏡検査
 - 3) ビデオ尿流動態検査
 - 4) 核医学検査、排尿時膀胱尿道撮影

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
Am	手術	手術	外来・検査	外来・検査	外来・検査
Pm	手術	手術	外来・検査	外来・検査	外来・検査

・ミーティング／回診：毎日 ・抄読会：随時

スタッフおよび施設認定など

常勤スタッフ 4名

坂井清英（科長）：日本泌尿器科学会専門医・指導医、
日本腎臓学会専門医・指導医、
日本小児泌尿器科学会認定医

相野谷慶子（部長）：日本泌尿器科学会専門医・指導医、
日本小児泌尿器科学会認定医

江里口智大（医長）：日本泌尿器科学会専門医・指導医

城之前翼（医師）：日本外科学会専門医

日本泌尿器科学会専門医教育施設認定（平成 18 年）

産科

胎児、新生児から小児までに対して特別なケアが必要な場合や、高度な医療技術が必要な場合に特化した小児専門病院の中にある産科という特質を踏まえた診療を行っている。すなわち通常の妊娠分娩管理に加えて、ハイリスク妊婦の母体搬送と胎児の出生前診断・治療といった分野に重点をおいており、高次周産期医療センターとしての役割を担っている。

当科での後期研修期間は、新生児医療や小児医学を専攻したいと考えている方は原則 2 か月、産婦人科専攻で特に周産期医療を志している方は最低 1 年間となる。産婦人科後期研修としては、残りの 1 年間を他の提携施設で婦人科学の研修を行うことになる。

当科での産科後期研修の最終目標は産婦人科専門医資格の取得であるが、そのために産科診療の基本である生理的な妊娠、分娩、産褥の一連の管理法を取得しつつ、ハイリスク妊産婦ならびにハイリスク胎児に対する管理法についての研修を行う。

行動目標

当病院産科は高次周産期医療センターとしての役割を担っているため、通常の産科の基本的技能に加えて、当科での研修により以下の発展的技能の習得も目指している。

1. 紹介患者の適切な受入れと経過報告を通して、病院間の連携を適切に行う
2. 産科救急の初期対応を行う
3. 胎児疾患の病態を正しく理解し、適切な胎児診断を行う
4. ハイリスク妊産婦の管理法や胎児疾患に対する治療を習得する
5. ハイリスク妊産婦とその家族の心情を理解し、適切な支援と面接技術を理解する
6. 周産期医療チームの一員として、関連他科（新生児科、小児外科、循環器科、心臓血管外科、脳神経外科、麻酔集中治療科など）と協力して診療できる
7. 新生児医学、超音波医学、人類遺伝学、遺伝カウンセリング、生命倫理学などといった隣接諸医学に関する基本的な知識を学ぶ
8. 周産期医学に関するテーマで臨床研究を行い、学会発表や英文論文の作成を行う

経験目標

1. 問診及び病歴の記載
医学的および社会的、心理的問題に関する問題リストと初期計画の作成
2. 妊娠の診断
超音波検査での胎児観察による妊娠週数、分娩予定日を決定する
稽留流産、異所性妊娠、胞状奇胎といった異常妊娠の診断と対応を行う
3. 妊婦健診での診察法
妊娠週数による母体、胎児の生理的変化を理解する
妊娠経過に伴うマイナートラブルへの指導と対処を行う
正しい超音波検査法による胎児計測と胎児評価を行う
子宮内発育不全や胎児異常を診断する

4. ハイリスク妊産婦、胎児の入院管理

切迫流早産妊婦に対する妊娠延長を目的とした管理を行う

胎児疾患の管理と胎児治療を行う

胎児発育遅延の診断、評価と管理を行う

5. 分娩時の管理法

内診を中心とした分娩進行を観察する

分娩監視装置を用いて胎児の状態を観察する

常位胎盤早期剥離、子宮破裂などの緊急事態を正しく判断する

分娩の遷延、胎児状態悪化時の吸引および鉗子分娩の手技を取得する

会陰切開の施行とその縫合、および産道裂傷の修復を行う

産後大出血への対処を行う

出生直後の新生児を評価し必要に応じて蘇生を行う

6. 産科手術

安全で正しい帝王切開手技を理解し実行する

適切な術前術後管理ができる

子宮頸管縫縮術、不妊手術、附属器腫瘍摘出術など産科手術手技を身につける

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
8:00～9:00	病棟カンファ ランスと回診	病棟カンファ ランスと回診	病棟カンファ ランスと回診	病棟カンファ ランスと回診	病棟カンファ ランスと回診
午前	病棟	外来	病棟	外来	病棟
午後	手術	遺伝外来	病棟	手術	病棟
		12:30～ 新生児科との 合同カンファ ランス		17:00～ 臨床研究ミー ティング	

分娩、緊急患者・緊急手術には随時立ち会う。

スタッフおよび施設認定など 産科常勤医師：5名

- 室月 淳（科長）：日本産科婦人科学会 産婦人科専門医
母体保護法指定医
日本周産期・新生児医学会 周産期専門医および指導医
日本超音波医学会 超音波専門医および超音波指導医
日本人類遺伝学会 臨床遺伝専門医および臨床遺伝指導医
NCPR インストラクター，ALSO インストラクター
- 利光 正岳（医長）：日本産科婦人科学会 産婦人科専門医
- 永岡 晋一（医師）：日本産科婦人科学会 産婦人科専門医， NCPR プロバイダー
- 小堀 周作（医師）：日本産科婦人科学会 産婦人科専門医， NCPR プロバイダー
- 田中 宏典（医師）：日本産科婦人科学会 産婦人科専門医， NCPR プロバイダー

母体保護法指定医療施設

- 日本産科婦人科学会 専門医制度研修施設
- 日本周産期・新生児医学会 周産期専門医制度指定研修施設（基幹施設）
- 日本超音波医学会 超音波専門医研修施設
- 新生児蘇生法（NCPR）トレーニングサイト

発達診療科

目標

発達障害児に対して診断と育児指導を行いうる知識と技能を習得する。

1. 発達障害の診断に必要な問診および神経学的診断を行う。
2. 発達評価の実施，結果の解釈を行う。
3. 1と2を総合して発達障害診断を行う。
4. リハビリテーションを療法士に依頼し、結果の評価を行う。

主な担当疾患

頻度の高い、代表的なものは以下の通りである。

1. 自閉症
2. 注意欠陥・多動性障害
3. 学習障害
4. 精神発達遅滞
5. 運動発達遅滞
6. 脳性麻痺
7. 摂食障害

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
Am	外来	外来	外来	外来	外来
Pm	外来	外来	NICU・ICU 回診	外来	外来

- 療法士とのミーティングは隔週
- 病棟入院カンファレンスは隔週
- 知的障害特別支援学校の巡回指導は二人で年 12 回

スタッフ

リハビリテーション科常勤医師：2名

奈良 隆寛（科長）：日本小児神経学会専門医、日本小児科学会専門医

涌澤 圭介（部長）：日本小児神経学会専門医、日本小児科学会専門医

理学療法士：12名、作業療法士：76名、言語聴覚士：5名、臨床心理士：3名
日本小児神経学会専門医研修認定施設

放射線科

目標

1. 各画像診断検査の正常像・異常像を理解する。
2. 各画像診断検査の特性を理解し、それぞれの症例に対して適切な画像診断検査を選択し、実施することができる。
3. 小児の代表的疾患における典型的な画像所見を理解し、実際の画像所見から診断・治療に結び付けることができる。
4. 放射線感受性の高い小児における被曝低減の重要性を理解し、実践できる。

主な担当検査

1. CT、MRI、超音波検査、核医学検査、血管造影検査、造影 X 線検査（一部）を行い、報告書を作成する。
2. 単純 X 線写真（一部）を読影し、報告書を作成する。

検査装置：CT 装置（16 列 MDCT） 1 台
MRI 装置（1.5T） 1 台
ガンマカメラ 1 台
血管造影装置 1 台
超音波検査装置 1 台
X 線透視装置 2 台

放射線治療装置：1 台

週間スケジュール

	月	火	水	木	金
午前	検査・読影	検査・読影	検査・読影	検査・読影	検査・読影
午後	検査・読影	検査・読影	検査・読影	検査・読影	検査・読影

- 毎週水曜日：新生児科とのカンファレンス
- 3 週ごとの火曜日：神経科とのカンファレンス
- 臨時カンファレンスは随時

スタッフ

放射線科常勤医師：1 名

島貫 義久（科長）：日本医学放射線学会放射線診断専門医、日本核医学会専門医

診療放射線技師：10 名

麻酔科

目標

小児患者および産科患者の周術期管理を学び理解を深める。

研修内容

1. 臨床技術

- 1) 小児患者および産科患者の術前評価
- 2) 種々の手術の麻酔管理
新生児期の緊急手術、心臓血管外科手術、脳神経外科手術、帝王切開など
- 3) 小児、とくに未熟児、新生児の体温管理
- 4) 気道確保（マスク換気、声門上デバイス、気管挿管）
- 5) 術中合併症、偶発症への対応
- 6) 小児の局所麻酔（術後鎮痛を含む）
- 7) 術後管理、評価
- 9) 患者およびその家族に対する説明、精神的配慮

2. 臨床知識

- 1) 麻酔に使用される薬物の薬理、薬物動態、薬力学、副作用
- 2) 小児麻酔に必要な解剖、生理、病態生理
- 3) 産科麻酔に必要な解剖、生理、病態生理
- 4) 周術期輸液・輸血管理
- 5) 小児の局所麻酔
- 6) 小児でよく遭遇する内科的、外科的問題
- 7) 社会的・倫理的問題

スケジュール

08：00-08：30	ICU 回診
08：30-08：40	術前カンファランス
09：00-17：15	麻酔管理
16：30-17：00（火）	心臓血管外科症例術前カンファランス
7：40- 8：00（火）	Neonatal Anesthesia 読み合わせ会
不定期（2回/月程度）	抄読会

スタッフおよび施設認定など

麻酔科常勤医師：6名

- 川名 信 (副院長) : 日本麻酔科学会指導医・専門医、日本小児麻酔学会認定医
東北大学医学部臨床教授
- 井口 まり (部長) : 日本麻酔科学会専門医・指導医
- 五十嵐 あゆ子 (部長) : 日本麻酔科学会専門医・指導医、日本小児麻酔学会認定医
- 菊地 千歌 (部長) : 日本麻酔科学会認定医・専門医・指導医、
日本小児麻酔科学会認定医
- 篠崎 友哉 (部長) : 日本麻酔科学会認定医・専門医・指導医
- 伊藤 弥生 (部長) : 日本麻酔科学会認定医・専門医

日本麻酔科学会認定施設

集中治療科

研修の概要と主な疾患

宮城県立こども病院 ICU (Pediatric Intensive Care Unit; PICU) にて、内因系・外因系を問わず、外科周術期も含め（診療科の枠にとらわれず）小児の重症患者診療を行う。主な診療対象は、呼吸・循環・意識・その他臓器に重篤な急性機能不全を呈した患者、手術・麻酔・処置・検査後などで嚴重な管理・モニタリングが必要な患者である。

目標

小児集中治療に関する基本的知識と技能を習得する。

- ・集中治療患者の緊急度、重症度を生理学的に評価し、初期蘇生を行える。
- ・重症患者を PICU など高次医療機関へ紹介・搬送する判断を行える。
- ・各種臓器不全に対する支持療法を施行する。
- ・搬送医療の適応と限界を理解し、重症患者搬送に従事する。
- ・チーム医療を理解し実践する。

* 研修者の背景、研修目的に合わせて到達目標は個別に相談する。

研修内容

- ・重症患者の評価と緊急度の認識、病態生理の理解
- ・救命処置の理解と各種手技の実施（骨髄輸液路確保、動脈ライン確保、中心静脈路確保、胸骨圧迫、除細動、気管挿管など）
- ・各種臓器不全の管理と治療の実践

呼吸：困難気道の管理、呼吸不全に対する人工呼吸療法（侵襲的陽圧換気療法、非侵襲的陽圧換気療法 NPPV）、high flow nasal cannula、体外式膜型人工肺 ECMO、気管支鏡検査

循環：循環不全・ショック・先天性心疾患周術期における輸液、循環作動薬、機械的循環補助療法 ECMO の管理、循環動態把握のためのエコー検査

中枢神経：脳炎脳症・心停止後症候群・脳神経外科疾患周術期の管理、頭蓋内圧亢進症の管理、集中治療における鎮痛鎮静管理

肝・腎：肝不全、腎不全に対する支持療法（血液ろ過透析、血漿交換などの急性血液浄化療法）

血液：重症患者に対する輸血療法、oncologic emergencies への対応

電解質・栄養・消化器：各種電解質補正、経腸栄養と経静脈栄養の選択と実施

感染：敗血症の治療、ICU での感染対策・感染管理、適切な抗菌療法の実施

スケジュール

08：00-08：45	ICU 回診
09：00-10：00（火）	NST カンファレンス
16：30-17：00（火）	心臓血管外科術前カンファレンス
17：00-17：30（火）	循環器カンファレンス
14：45-15：00（水）	リハビリ回診・カンファレンス
麻酔科集中治療科合同の勉強会・抄読会あり	

スタッフおよび施設認定など

集中治療科医師：3名

川名 信（科長、副院長）

日本麻酔科学会指導医

日本小児麻酔学会認定医

小泉 沢

日本集中治療医学会専門医

日本呼吸療法医学会専門医

日本小児科学会専門医

其田 健司

日本小児科学会専門医

日本集中治療医学会専門医研修認定施設

日本呼吸療法医学会専門医研修施設

2018(平成 30)年度 後期臨床研修プログラム

2018 年 6 月 1 日 発行

編集 臨床研修委員会

発行者 今泉 益栄

発行所 地方独立行政法人

宮城県立こども病院

〒989-3126 仙台市青葉区落合 4-3-17

TEL: 022-391-5111 FAX: 022-391-5118

<http://www.miyagi-children.or.jp/>
